

④ 科目名	心理学概論
④ 科目名(英訳)	Introduction to Psychology
④ 科目ナンバー	HM100A01
④ 詳細情報	授業外学修時間:週4時間
④ 担当者 (非)は非常勤講師	胡 琴菊(非)
④ 単位数	2
④ 開講学年	1年
④ 開講セメスター	春期毎週
④ 対象学科 選択・必修	必修: 選択:HM
④ 他学科受講	
④ 履修順序・履修情報	類似科目情報あり
④ 担当者及び時間割	【春学期】 胡 琴菊(非):金3-4
④ カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	学科専門教育科目の中のメディア情報社会基盤科目のうちの理論基礎科目として位置づけられる。理論基礎科目は、メディア情報社会に関する基礎的理論を修得するための科目群である。本講義は、心理学の基礎的な知識を自分の経験や日常生活の中に結びつけて理解すると同時に、心理学の基礎的な考え方触れることで「心理学的なものの考え方」を習得するための科目である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ②:○ ③:○
④ 身につく基礎力／身につく汎用力	／豊かな教養 専門的知識・技能 学び続ける能力

授業の主旨 (概要)	心理学が科学として独立してから今日まで、その対象としての心理現象を実証科学的に探求する種々の試みがなされてきた。本科目の授業では、普段私たちが感じていること、見ていること、行っていることが科学的にはどのように解明されてきたのかについて解説する。認知心理学、感情心理学、行動心理学、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学等にわたる心理学全般の基本的知見を概観し、心理学がどのような学問であるかについての理解を深める。				
具体的な達成目標	具体的には、個人を対象にした心理学(認知、感情、パーソナリティ等)、社会の関係の中での心理学(対人関係、コミュニケーション等)を広く学ぶことができる。				
	1	【内容】	【第1回】オリエンテーション 心理学とは?心の科学の生い立ちと歩み		
	2	【授業外学習】	心理学誕生の経緯などの歴史を理解する		
	3	【内容】	【第2回】感覚と知覚の心理学(1) 私たちは外界をどのように知るのか		
	4	【授業外学習】	私たちの心の窓である感覚がどのような性質を持っているのかを理解する		
	5	【内容】	【第3回】感覚と知覚の心理学(2) 人間が物事をどのように捉えるのか		
		【授業外学習】	情報に対する主体的な働きを理解する		
		【内容】	【第4回】感覚と知覚の心理学(3) なぜ脳はたまされるのか?		
		【授業外学習】	(人間が周りの環境に適応するための巧妙な脳の戦略の表れである)錯覚を理解する		
		【内容】	【第5回】記憶の心理学(1) 覚えることのしくみ		

④ 授業計画	6	【授業外学習】記憶のメカニズムについて理解する
		【内容】【第6回】記憶の心理学(2) 忘れることのしくみ
		【授業外学習】忘却のしくみについて理解する
		【内容】【第7回】記憶の心理学(3) 記憶の変容
		【授業外学習】実生活での記憶の変容について理解する
		【内容】【第8回】思考の心理学(1) 思考とは?
		【授業外学習】人間の脳に備わる2つの考える仕組み(論理と直観)を理解する
		【内容】【第9回】思考の心理学(2) 思考のプロセス①:問題解決や推理
		【授業外学習】問題解決や推理における人間の思考活動の働き方や特性を理解する
		【内容】【第10回】思考の心理学(3) 思考のプロセス②:判断と意思決定
		【授業外学習】判断と意思決定における人間の思考活動の働き方や特性を理解する
		【内容】【第11回】パーソナリティの心理学(1) 一人ひとりの心の特性を知る
		【授業外学習】性格の形成要因を理解する
		【内容】【第12回】パーソナリティの心理学(2) 一人ひとりの心の特性を知る
		【授業外学習】性格検査から自分の性格を理解する
		【内容】【第13回】感情の心理学 喜怒哀楽が生まれるしくみ
		【授業外学習】感情はどんな働きをしているのかを理解する
		【内容】【第14回】社会の心理学 対人コミュニケーション
		【授業外学習】対人コミュニケーションの意味や機能を理解する
		【内容】【第15回】振り返り
		【授業外学習】半期のまとめを行う

⑤ 授業方法	主に講義形式を中心とするが、受講人数によってはディスカッションやグループワークを取り入れることがある。講義内容に関連する資料はプリントとして配布するか大学のWEBサイトで配信する。 小レポート課題を出すことがある。課題等については、基本的にはコメント等をつけて返却する予定であるが、多くの学生に共通するような一般的な注意事項等のコメントが多い場合は、個別に対応するのではなく、授業中に全員に対して一括してフィードバックする。												
⑥ 成績の評価方法	基礎的な概念や知識の習得度および心理学的な観点の理解度等について、試験や課題の内容を評価する。 成績は課題の取り組みや受講状況等を加味して総合的に評価する。 劣悪な受講状況や遅刻・欠席の頻度は減点評価の対象となる。												
⑦ 成績の評価基準	講義への積極的参加度・講義内の小レポート70%、定期試験30%等により総合的評価する。												
⑧ 教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社</th> <th>価格</th> <th>ISBN/ISSN</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN	1.					
No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN								
1.													
⑨ 参考文献													
⑩ 備考	講義中の私語や携帯電話の使用等の他の受講者の迷惑や授業妨害になる行動を厳正に対処する。 毎回の講義を通じて「人のこころ」について自分なりに考え、日々の生活と関連づけながら積極的な姿勢で授業に臨む。												
⑪ 関連ホーム													

ページ	
メール アドレス	胡 琴菊 syn5995@fsc.chubu.ac.jp
オフィス アワー	